

事務局説明

令和3年11月16日(火) 教育委員会

事務局説明

1 第4回会議の持ち方 (P3~7)

2 コミュニティ・スクールの深化 (P8~15)

1 現状分析

2 課題認識

3 施策の検討における視点

3 サードプレイスの充実 (P16~21)

1 現状分析

2 課題認識

3 施策の検討における視点

4 本日の協議の流れ (P22)

1. 第4回会議の持ち方について

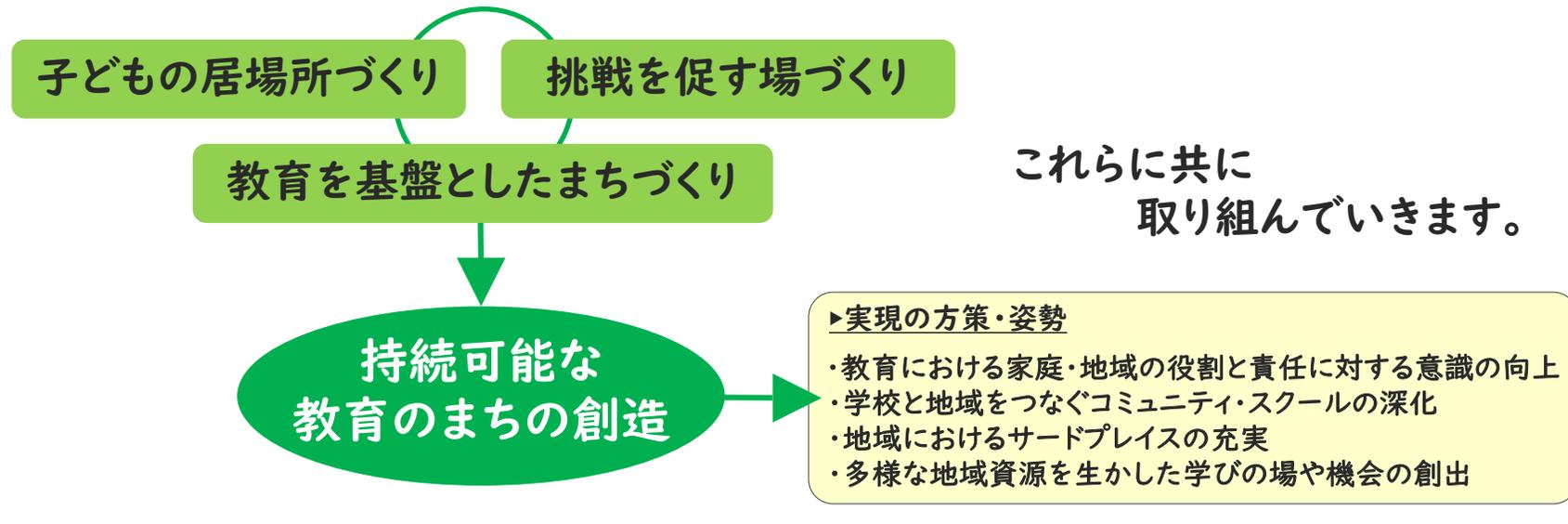
1-1. 教育大綱が目指す「家庭・地域」の姿

- 家庭・地域が、子どもたちの多様な学びの担い手、教育を通じた社会の支え手となることが必要不可欠

岐阜市教育大綱 ～目指す「家庭・地域」の姿～

教育は、学校・教職員だけの力で成し得るものでなく、**家庭・地域の皆様**にも、**子どもの教育の当事者**として役割と責任を担っていただくとともに、

コミュニティ・スクールなど**多様な地域資源**（組織、人材、場所等）と**様々な人の繋がり**の中で



1-2. 社会に開かれた教育課程

- 社会に開かれた教育課程も、学校と社会が協働する学びの中で、子どもの**生きる力**を育てることを提唱

<社会に開かれた教育課程>

学習指導要領を支える、基盤となる考え方

3つの要点

- ① よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を、**学校と社会とが共有**していくこと
- ② これからの社会を創り出していく子どもたちに**必要な資質・能力**を明らかにし、**学校教育で育成**していくこと
- ③ 学校教育を**学校内に閉じず**に、その目指すところを**社会と共有・連携しながら実現**させること

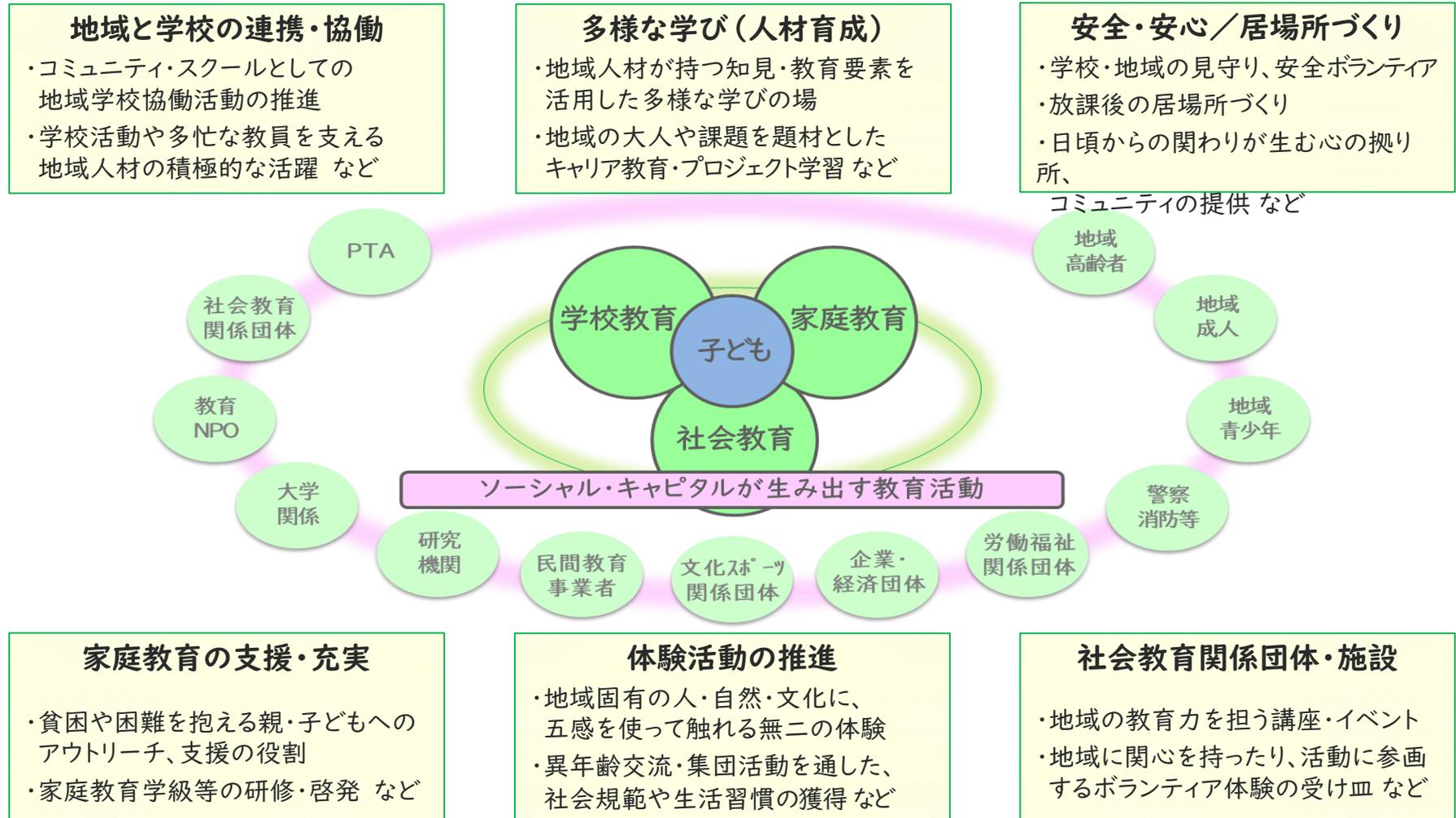
社会のつながりの中で学ぶことで

自分の力で人生や社会をよりよくできる
という実感を持つことができる

変化の激しい社会の中で困難を乗り越え
未来に向けて進む**希望や力**となる

1-3. 教育基盤を支える家庭・地域の有り様

● 実際に本市でも、家庭・地域が様々な役割・機能を果たすとともに、子どもたちの教育基盤を支えている



1-4. 協議の主としたい論点

- 学校と地域の更なる協働を目指し、「コミュニティ・スクールの深化」「サードプレイスの充実」を論点とする

本市はこれまでも、学校と地域の協働のもと、子どもの学びや育ちを支える取組みを推進
⇒ 全市立学校・園のコミュニティ・スクール化、社会教育施設での様々な教育活動の実施

一方で現在、教育が大きな転換期を迎えていることや実社会で生きる力の育成が必要視される中、
学校と地域が一段と繋がりを深め、これらの期待に応えていくことが求められている

現在の協働体制やこれまで積み重ねてきた取組みを**強み**として活かすとともに、
その一層の**充実**、また**新たな価値観の付加**を図ることを目指し、施策を検討

協議、取組むべき**2つの論点**を設定

【コミュニティ・スクールの深化】

- ・CS会議組織の活性化、組織間での連携
- ・地域を主軸とした運営、組織編制への移行

【サードプレイスの充実】

- ・サードプレイスの持つ機能、可能性のデザイン
- ・各施設の取組みを繋ぐ横断的な学びのツール

2. コミュニティ・スクールの深化

2-1. 現状分析(1) ~コミュニティ・スクールの深化~

●岐阜市型コミュニティ・スクールの歩みと期待される効果

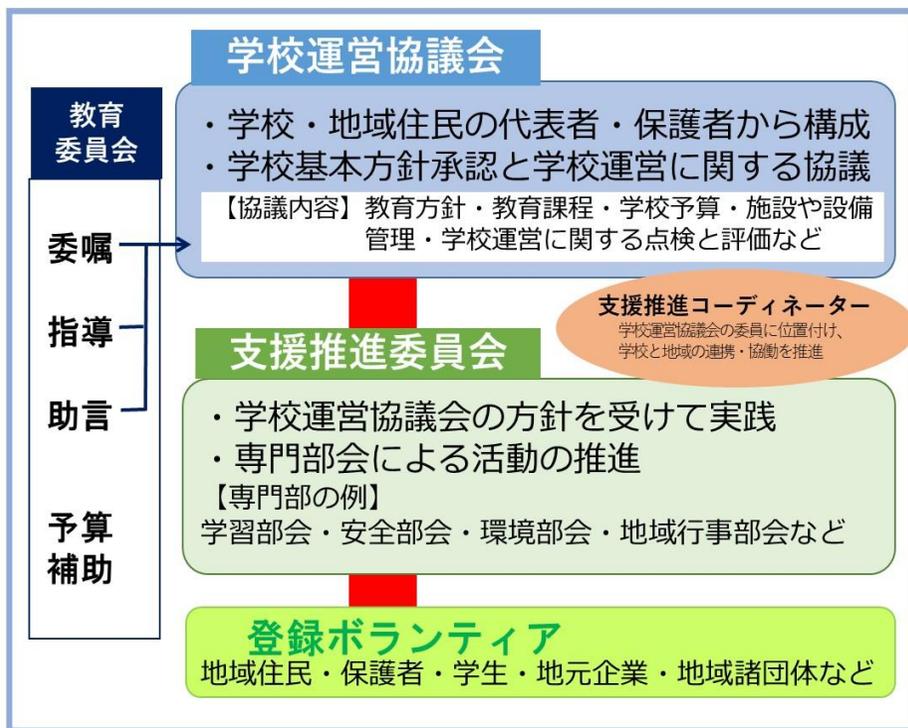
コミュニティ・スクール=学校運営協議会を設置した学校

- ・H20年度 CS指定 開始
- ・~H27年度 市立の全小中学校、市立特別支援学校 CS化
- ・H30年度 市立幼稚園、市立高等学校 CS化



学校運営協議会（長森中）

■岐阜市型コミュニティ・スクールの取組



効果

持続可能な仕組み

学校運営協議会によって地域との連携・協働体制が継続

目標・ビジョンの共有

地域でどのような子どもを育てるか、何を実現していくのか

地域の教育力

地域の資源、人材等を生かした活動の展開

地域とともにある学校により、
社会に開かれた教育課程を実現

2-1. 現状分析(2) ～コミュニティ・スクールの深化～

●地域の人々とのつながりを生み出す学校の取組の様子 ～地域への愛情や誇りをもつ～



シニアの方とのクラブ活動
(芥見東小)



JAの方との収穫体験
(則武小)



地域の消毒ボランティア
(岩野田北小)



自治会等の支援による防災学習
(本荘中)



地域の方によるキャリア学習
(梅林中)



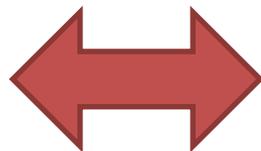
地域の方との学校整備活動
(島中)

2-1. 現状分析(3) ~コミュニティ・スクールの深化~

●これまでの取組を生かした**持続可能なコミュニティ・スクールづくり**の必要性

<目標>

- ・地域と学校の連携・協働による
将来の担い手を育成
- ・地域性を生かした活動の工夫



<課題>

- ・学校主体の運営による
学校の業務増加
- ・活動のマンネリ化

持続可能なコミュニティ・スクールづくりを目指して

【令和3年度】

学校と地域をつなぐCSコーディネーターのスキルアップを目的としたセミナー（年4回）の実施

講師：東京大学教授 牧野篤氏、岐阜大学准教授 吉澤寛之氏、岐阜聖徳学園大学准教授 吉田琢哉氏、
全国体験活動ボランティア活動総合推進センター 大坪直子氏



オンラインによる受講の様子
(青山中)

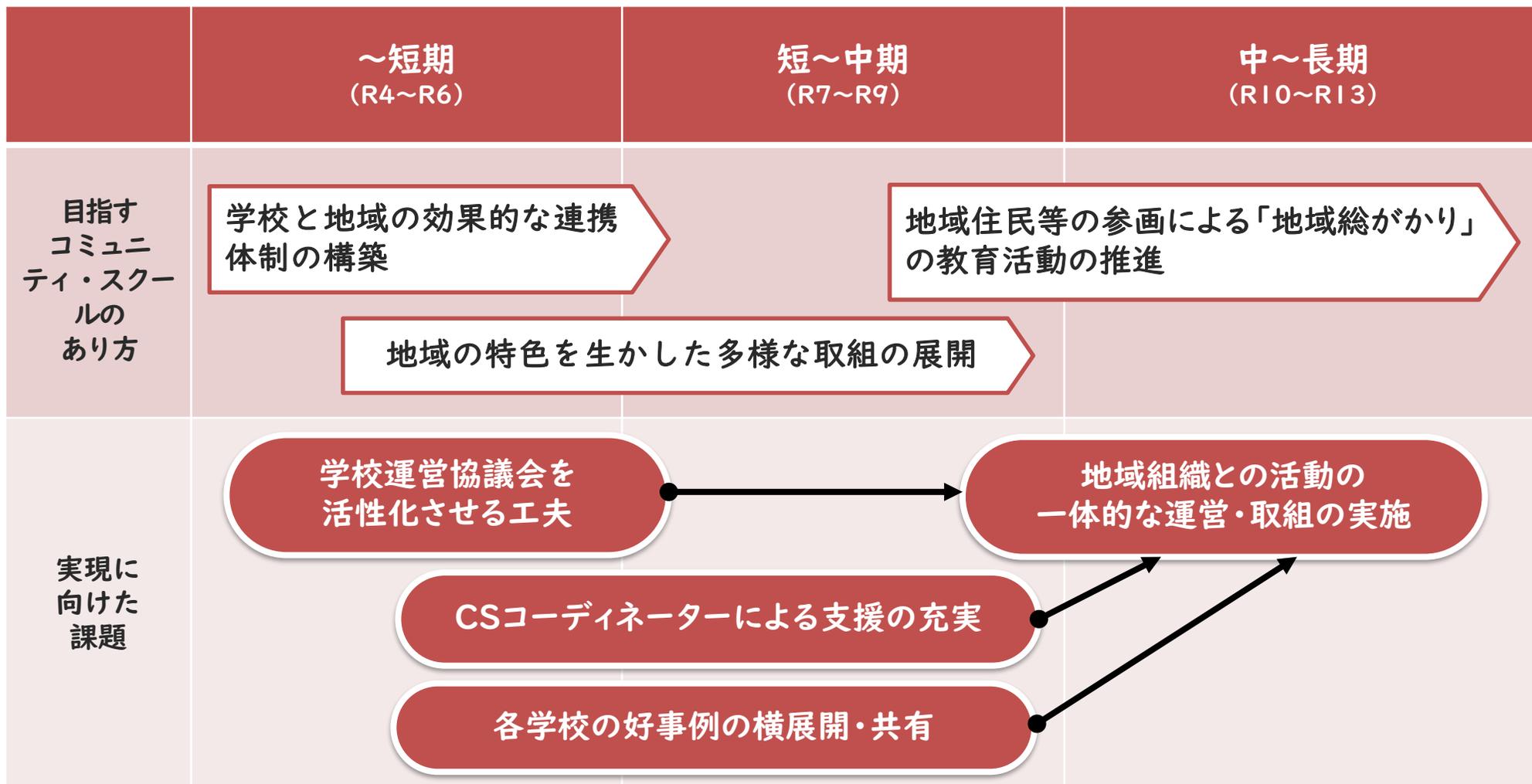
<参加者の声より>

- ・地域と学校の連携・協働により、子どもは地域の一員としての自覚と愛情をもつとともに、**自己肯定感**や**コミュニケーション能力**などを高めることになることが分かった。
- ・コーディネーターとして地域の多様な資源を学校に提供し、活動の運営に**積極的に協力**していきたい。

※「**統括CSコーディネーター**」が、上記のセミナーを企画・運営し、各学校の活動の充実につなげる。

2-2. 課題認識 ～コミュニティ・スクールの深化～

●目指すコミュニティ・スクールのあり方とその実現に向けた課題を以下のとおり、整理



2-3. 施策の検討における視点(1) ~コミュニティ・スクールの深化~

●学校と地域の効果的な連携体制の構築

学校運営協議会を活性化させる工夫

幅広い年代層、業種を考慮した委員の構成

・学校運営協議会委員に、その学校を卒業した高校生や大学生、

20代の大人たちを就任依頼

→地域に生きる次世代の担い手育成

・さまざまな業種の方の意見や考え方を尊重

→よりよい方向や取組を吟味・選択

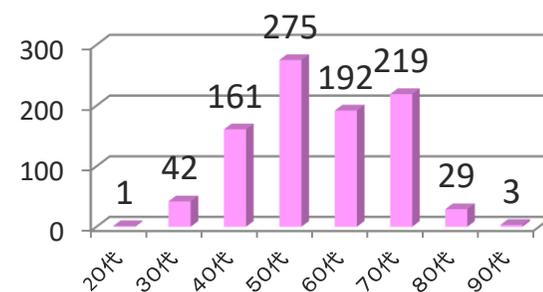
地域と学校による熟議の場の設定

・管理職やCS担当だけではなく、他の多くの教職員や児童生徒代表も学校運営協議会委員と一緒に、学校や地域の課題に沿って熟議をする場を年に1~2回実施

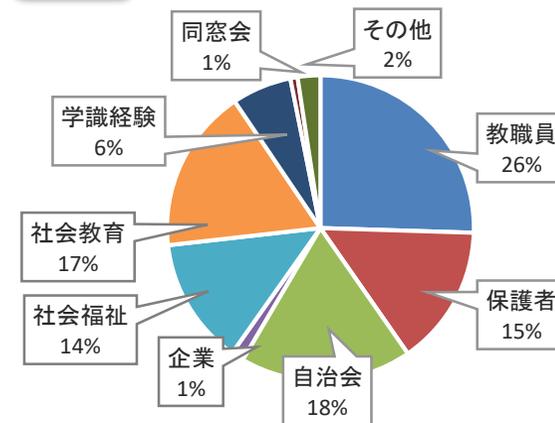
→地域と学校が親密になり、柔軟かつ強固な連携を創造

学校運営協議会委員(R3)

年齢 73校(園)922人
1校あたり12人



構成



2-3. 施策の検討における視点(2) ~コミュニティ・スクールの深化~

●地域の特色を生かした多様な取組の展開

CSコーディネーターによる支援の充実

CSコーディネーターの役割の明確化

- ・地域主体の土曜授業、学校行事等を学校とCSコーディネーターが協議
→学校のニーズに沿って、**地域の資源**(組織、人材、場所等)を提供



各学校の好事例の横展開・共有

他校の実践から学び合う場の設定

- ・CS推進セミナーにおいて、先進校及び各ブロックの代表校による実践発表及び有識者が講評
→**学校や地域の実情**に応じた、よりよいコミュニティ・スクールの構築
- ・既存の活動の中に地域性を積極的に導入(地域の自然、伝統、文化、産業)
→**ふるさと岐阜**に生きる人の「**生き方**」から学ぶ



2-3. 施策の検討における視点(3) ~コミュニティ・スクールの深化~

- 地域住民等の参画による「**地域総がかり**」の教育活動の推進

地域組織との活動の一体的な運営・取組の実施

教育委員会と市民協働部門(まちづくり協議会、公民館等)が連携

- ・学校行事の精選(地域行事との合同開催等)
→地域との連携を図るための**時間と場の確保**
- ・地域の方と中学校区(小中一貫)の取組の系統性を検討(カリキュラム編成)
→**小中の9年間で学校と地域の連携のあり方(内容・方法)を整理**
- ・学校行事の運営を地域の団体が協力(運動会、遠足等)
→**学校を核とした地域づくりの推進**



地域と学校が一体となって未来の担い手を育てるという理念を共有し、
子どもの豊かな成長のために、それぞれが**主体的**に取り組む。

3. サードプレイスの充実

3-1. 現状分析(1) ~サードプレイスの充実~

- 「サードプレイス」の定義、「サードプレイス」をもつことの重要性への理解がまだまだ浸透していない

豊かな心・幸福感につながる

安心感・充実感・達成感・自己有用感・地域社会への所属感

人と人とのつながり

【めざす理念】

学び・楽しみ

もっと知りたい！
もっとやってみたい！

くつろぎ

自分のペースで
〇〇したい

【サードプレイス】
**心地のよい
第3の居場所**

やすらぎ

一緒にいたい
話を聞いてほしい

3-1. 現状分析(2) ~サードプレイスの充実~ 【現状の課題】

- 「サードプレイス」の定義、重要性への理解がまだまだ浸透しておらず、意識の掘り起こしが必要

社会一般

①「サードプレイス」の言葉や定義が**広く浸透していない**

- サードプレイスって、何だろう？ どんな所だろう？

子どもたち・利用者

②サードプレイスとしての機能があることが**伝わっていない** 人や地域とつながる、広がるチャンスが**活かされていない**

- どんなことをやっているのか、知らない。わからない。
- 学校や保護者にも、そのよさや価値が伝わっていない。

施設や活動に携わる運営者

③「サードプレイス」としての役割を**担う意識が弱い**

- 様々な事業は行っているけれど、サードプレイスとしては…。
- 迎える側が大切にするとよいことは、なんだろう？

3-2. 課題認識 ~サードプレイスの充実~

- 地域や社会教育施設における、サードプレイスのあり方とその実現に向けた課題を以下のとおり、整理

	～ 短期 (R4年度)	短 ～ 中期 2～3年	中 ～ 長期 3～5年
めざす サードプレイスの あり方	<p>サードプレイス機能の整理と周知</p> <p>青少年会館、自然の家等での サードプレイス機能の実践</p>		<p>地域や様々な社会 教育施設での サードプレイス機 能の実践、定着</p>
実現に向けた 課題	<p>サードプレイス機能の 定義、役割の整理</p> <p>青少年会館、自然の家 ドリームシアター岐阜 科学館、歴史博物館での機能の実践</p> <p>関係機関との共通理解・連携の企画</p>		<p>様々な場面、各施設での 具体的な取組みの検討、実践</p> <p>利用者にとっての サードプレイスの広がり、定着</p>

3-3. 施策の検討における視点(1) ~サードプレイスの充実~

- 様々な社会教育施設における、「サードプレイス機能」の共通理解を図る施策を検討する

サードプレイス機能の定義、役割の整理

教育委員会発信の「サードプレイス機能」の
定義やその役割を整理
→「社会教育委員会議」のR3年度テーマにも設定



関係機関との共通理解・連携の企画

社会教育施設での「学び・体験」を記録し、
様々な施設をつなぐ「**学びのパスポート**」検討

- ◇「知りたい!」「やってみたい!」願いを叶える社会教育施設の情報紹介
- ◇学びや体験の足跡を【パスポート】として記録し、学びや体験を「見える化」する。
→タブレットで検索、管理できる仕組みを検討

利用者にとっての 「サードプレイス」の広がり、定着

自己達成感、自己充実感の**獲得へ**

- ◇自分にとっての「サードプレイス」の自覚を促し、自己の成長を見つめる。
- ◇自己充実感、自己達成感を得ると共に、さらなるチャレンジ、新しい出会いに向かう。

3-3. 施策の検討における視点(2) ~サードプレイスの充実~

- 教育委員会所管施設での実践の積み上げを行い、その後、様々な場面、他施設への拡大へ

様々な場面、各施設での具体的な取組みの検討、実践

【地域、地域活動】

- 子ども会
- 青少年育成市民会議
- ボランティア活動(CVS活動)

【様々な社会教育施設】

- ぎふメディアコスモス
- 図書館
- 公民館
- コミュニティセンター
- 児童館

【その他】

- 公園、運動公園
- 民間施設
- オンライン等

社会教育施設での機能の実践

職員、所員とのなげない会話、人と人のつながり

少年自然の家

- 自然体験を満喫できる家族、子ども対象事業の充実
- やってみたいを形にした「アウトドア倶楽部事業」の展開

青少年会館

- 中高生ジュニアリーダー活動の場づくり
- 特色を活かした講座やイベント企画

ドリームシアター岐阜

- 青少年会館、エールぎふと連携した青少年育成支援事業

科学館 歴史博物館

- 各指導主事と協働し、学校と連携した事業を展開

『学びのパスポート』でつなぐ

4. 本日の協議の流れ

- 事務局及び招聘者からの説明を踏まえ、以下の事項について、ご協議いただきたい

協議の流れ	
(1) 事務局説明	<ul style="list-style-type: none">● 現状分析及び課題認識● 課題に対する施策検討の視点（及び施策素案）の提示
(2) 招聘者説明	<ul style="list-style-type: none">● 地域の大人が魅せる生き方を学び、社会とつながる「村民学」の実践紹介● 大坪様 学校と地域の協働カリキュラムの充実 教育を土台としたまちづくりの推進] に向けての示唆
	<ul style="list-style-type: none">● 杉浦様 子どもたちと向き合い続ける「コミュニティ・カフェわおん」での実践紹介● これまでの実践から紐解く、サードプレイスの有用性や今後の可能性を展望
(3) 意見交換	<p>ご協議いただきたいこと</p> <p>コミュニティ・スクールの深化、サードプレイスの充実を更に押し進めるため、 教育委員会等が取り組む必要がある 具体的な施策、方向性について</p>

- 昨年度に続き、**教育大綱の実現**に向けた協議を展開し、**教育立市の更なる深化**を目指す

岐阜市教育大綱が掲げる**基本理念**及び**目指す姿の実現**に向けて、

昨年度までの**協議の軌跡**、具現化した**施策との連環**を意識しつつ、

市長と教育委員会による協議・調整のもと、**更なる教育施策の検討・推進**を図る

1. 次年度に取り組むべき施策を具体化し、**立案**する
2. 中長期的に取り組む施策の方向性・見通しを共有する



「こどもファースト」の理念に基づく**教育立市の更なる深化**

(参考) 会議日程

- 今年度、以下のとおり計6回の会議を開催予定、施策協議及び大綱に定める成果検証を行う

※ 時間は基本、13:30~15:30を予定

回	日程	場所	協議事項	招聘者による話題提供(予定)
第1回	7/20 (火)	庁舎大会議室	協議(学校・教職員) 各学校の共通課題の解決 (現状分析・課題認識)	<ul style="list-style-type: none"> ・国の学校教職員の働き方改革の全体像 ・今後の部活動のあり方の方向性を提示
第2回	8/30 (月)	庁舎大会議室	協議(学校・教職員) 各学校の共通課題の解決 (施策の方向性・概要検討)	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した業務改革の更なる視点 ・部活動の地域移行の先進事例紹介
第3回	10/13 (水)	庁舎大会議室	協議(子ども) 子どもの学びの構造転換	<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学びを支える大人の問い・関わり方 ・これからの学びに応える、学校のかたち
第4回	11/16 (火)	メディアコスモス かんがえるスタジオ	協議(家庭・地域) 地域が支える、子どもの学びと育ち	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の大人が魅せる、育むシビックプライド ・サードプレイスの更なる役割・可能性の広がり
第5回	12/24 (金)	メディアコスモス かんがえるスタジオ	協議(DX) 学びを創るDXの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTが常に隣り合う次代の学びの姿 (デジタルシティズンシップ教育への転換)
第6回	1/6 (木)	庁舎大会議室	施策推進状況に対する成果検証 年間総括(今年度協議成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・「生き方の探究学習」カリキュラムの更なる発展・充実に繋がる、示唆・助言

(参考) 会議ロードマップ

●協議の成果として、次年度の施策を具現化 及び 施策の中長期的な方向性・見通し を得る

